姶良歴史ボランティア協会広報誌　第21号

あいらの歴史と物語

発行日：平成26年3月13日（木）
発行責任者：姶良歴史ボランティア協会
会　長　橘木　雅晴
編　集　者：広報部　松下　澄行

連絡先：〒899-5421　鹿児島県姶良市東餅田498　姶良市歴史民俗資料館　電話0995(65)1553

中津野用水路と水口ユキエ関連史跡めぐり

中津野用水路

恒吉　一洋

中津野用水路は、山田地区を流れる山田川の山下井堰から、山田・中川原を通って中津野に至る灌漑用の水路で、宝暦2年（1752）に完成しました。

この用水路の総延長は約4kmですが、勾配がごくわずかであり、途中に山や岩盤をくりぬいたトンネルが9カ所もあることなどから、大変な難工事であったことが想像されます。

川が近くにありながら、高台のために陸稲しか作れなかったこの地域の人々のために、何とか水を引いて水田にする方策はないかと思案し行動を起こした人が、中川原に住んでいた15歳の少女水口ユキエでした。

しぶる住民を説得し難工事に手を焼き、艱難辛苦の末ようやく用水路を完成させ、山田地区に32ha、中津野地区に34haの水田が出現しました。

しかし、ユキエがたぐいまれな才媛であったため、将来の大事を案じた役人たちの手により近くの山中で殺害されたという伝承もあります。

昭和26年(1951)4月、当時の山田村村長は関係者に諮り井堰の水路取り付け口に顕彰碑を建て、ユキエの功績をたたえました。

中川原の十二夜待ち成就碑

橘木　雅晴

中川原公民館の田の神像の横に、寛延4年（1751）3月12日建立の十二夜待ちの碑があります。

中川原用水路が完成する1年前に建てられました。

月待ち碑（塔）は特定の月齢の夜に集まり、月待ち行事供養成就記念として講中で造立し、月待ち信仰塔ともいいます。

この碑は十二夜の月齢の夜に女性の仲間が飲食を共にしたあと、経などを唱えて月を拝み、悪霊を追い払う民間信仰の成就記念碑です。

講の座元では、季節の料理を食べながらよもやま話をしたり、時には農事や世事の研究の場となったり、歌や踊りをして娯楽的色彩も強い行事でした。

また二十三夜待ちのように、旅先にある家族の無病息災を祈るというところもありました。

加治木巡検 2

小山田氏の墓

恒見 勝則

「加治木家の系図」によれば、小山田氏は加治木氏の庶流で、平安時代に加治木4代頼光の子資頼から始まります。

小山田氏の墓は、1基の五輪塔と2基の宝篋印塔から成ります。五輪塔のうち空輪・風輪・火輪、宝篋印塔のうち相輪と基輪は2基とも桃木野石で復元しています。宝篋印塔の塔身や格狭間には丁寧な幾何学文が施されています。

最も西側の宝篋印塔には、「元亀元年(1570)」の年号や「明安妙鏡大姉」の女性法名が刻まれるなど、中世の加治木氏の歴史を今につなぐ貴重な文化財で、現在でも子孫の小山田氏（蒲生在住）が守り続けています。

外観は歴史性を感じさせ、周囲は整然とした地域の崇敬を印象づける古墓です。

谷山初七郎 と 郁文館

竹之下 洲一

東京第一高等学校教授として名を馳せた谷山初七郎は、33歳で上京するまで小学校の教師を勤める傍ら、色々な学校で国語・漢籍・法学などを学びました。

明治19年(1886) 23歳のとき小烏(現錦江)小学校訓導となったころ、中等教育の必要性を認識し、加治木中学校の創設を訴えながら、自ら須崎の自宅近くに学舎水哉館を設けました。学校では放課後上級生を集めて、漢籍講義や学科復習などに当たりました。

木田の住民はこれらの挙に共鳴し、資金を集めて学校近くに郁文館を創建し、初代館長に初七郎を推挙しました。明治23年(1890)のことです。

郁文館は、昭和17年(1942)台風により全壊しましたが、館生の活動は戦後も続き、昭和47年(1972)ごろ自然消滅したとのことです。

飯地坂 の 改修記念碑

坂元 清美

以前は「イッツノ坂」といい、「結手の坂」と書いていましたが、現在は、「飯地坂」と書くようになりました。この改修記念碑には、「飯地坂ハ幾百年ノ昔開キタルモノナリヤ知ルニ由ナシ爾来今日に至ル迄殆ンド改修シタルナケンハ坂道頗ル険悪ニシテ物資ノ運輸困難ナルハ勿論人畜ノ往来スラ甚不便ナルヲ志士深ク遺憾トナシ□改修ノ企アリシモ種々ノ故障アリテ果サズ我ガ町會・・・」とあるように、往来に厳しい坂道でたびたび改修計画がたてられました。

ようやく大正3年(1914)、当時の金額で3,830円余りの大金をかけ改修に着手しましたが、経費が足りず西別府の人々が労力を提供したとのことです。改修後、西別府の人々はこの道を使って薪や野菜などを加治木の町に売りに行き、このような生活が終戦まで続いたそうです。

その後、現在の場所に新道をつくり、国鉄バスが運行されるようになりました。現在は、市営巡回バスが走っています。

平成25年度ボランティアガイド養成講座生
ガイド研修報告

掛橋坂

橘木　國丸

中世の頃には、道幅が狭く危険であったことから、木を渡して造った 桟(かけはし) と呼ばれる道だったことが名前の由来とされています。

掛橋坂は、蒲生町北と西浦を結ぶ峠に２年前見つかった石畳道で、江戸時代には藺牟田・祁答院方面と蒲生を結ぶ地方街道として、帖佐郷鍋倉にあった納屋町御蔵(なやまちおくら)・小烏御蔵(こがらすおくら)まで年貢米輸送などに利用され、難所として知られていました。

18世紀末、寛政８年(1796)までには地山の石を削った石段や、切り石を敷き詰めた石畳が完成したと言われています。大きな岩盤を開削した石畳であり岩盤には石ノミの跡が残っていることから、明らかに人工的に開削されたものであることが分かり、当時の技術では困難な掘削作業だったと思われ、その苦労が偲ばれます。

中津野用水路

永富　巖

姶良市下名を流れる山田川の山下井堰から取水し、中川原を経て中津野に至る総延長４kmの用水路があります。 岩をくり貫いた隧道が９か所もある水路で、その長さは約 550mもあるそうです。完成したのは今から約260年前、江戸時代の宝暦２年(1752)といわれています。山田地区 32ha、中津野地区 34ha の水田に念願の水が引かれるようになり、地域の人々の喜びもひとしおだったに違いありません。

用水路の創設者は15歳の水口ユキエと伝えられ、彼女の功績をたたえる顕彰碑が取水口近くに建てられています。中津野用水路に関する記録については、『鹿児島県維新前土木史』に藩政期の開発であるという記載があるのみで、ユキエとの関連を示す文献・資料は今のところみつかっていません。

今日も用水路には、農地を潤す清水が流れています。

弥勒窯跡

吉田　茂子

弥勒窯は弥勒皿山ともいわれています。木田猫嶽の南麓に昭和９年(1934)に発見された、平面扇形の連房式登窯(れんぼうしきのぼりがま)で、焼成室(しょうせいしつ)５室、全長20m以上、幅６m、薩摩焼の窯としては大規模なものでした。

窯跡の「山神」に刻まれた文字から、龍門司焼の中原十左衛門が主取をつとめ、肥前から職人を招いていることがわかります。また天明６年(1786)「皿山御免許」とあり、藩が開窯を許可したことがわかります。藩主25代重豪(しげひで)、加治木領主６代久徴(ひさなる)の頃です。

弥勒窯は加治木島津家が、産業振興の施策として染付白磁(そめつけはくじ)を製造するために開窯させ、大量生産を目的とした窯場であったようですが、長くは続かなかったといわれています。

平成９年11月から発掘調査がおこなわれ、翌10年には埋め戻されています。磁器の内底に昆虫文が描かれているのが特徴です。

姶良市歴史資料館展示品紹介

古民家の再現

松下　澄行

姶良市歴史民俗資料館２階右奥に、明治の初めから昭和 40 年代にあった民家（母屋）の一部で「ナカエ」と呼ばれていた部屋が再現してあります。

ナカエは家族が日常生活をおくる場所です。いろりを中心に横座（家長専用の座）、左横はかか（嬶）座、右側は客座とよばれ、それぞれ座る場所が決まっていました。中央にいろりがあり、いろりの真ん中には竹と木で作った「自在カギ」が天井から吊るしてありました。そのカギにやかんを掛けお湯を沸かしたり、鍋を掛けて煮物をしたり、魚を焼き、寒い時期には暖をとる所でした。また、いろりの火は一年中絶やすことはありませんでした。

昭和 40 年代頃を知る人は懐かしく感じられるのではないでしょうか。周囲には当時使われていた色々な道具なども展示されています。

歴史用語解説

竹之下　洲一

『五輪塔』　上から宝珠形の空、半球の風、三角の火、球形の水、方形の地の五つの部分からなる塔。この五つは、密教の教えでは世界を構成する五大元素をあらわし、塔の形は大日如来を象徴するとされる。平安後期ごろから死者への墓塔、舎利容器などとして石や金属で造られた。中世の石塔の中で最も一般的で数が多い。

『宝篋印塔』　過去現在未来にわたる諸仏の全身舎利を奉蔵するために「宝篋印陀羅尼」を納めた供養塔をいう。石塔が多く鎌倉中期から造立された。基本的には基壇上に、基礎・塔身・笠・相輪をつみあげ、塔身の四面に梵字を彫る。五輪塔とともに、石塔のうちでもっとも普遍的で全国的に数が多い。

《姶郷》

同居人は見た「日々是好日」

匿名　希望

我が家のお犬様、御歳 11 歳（柴犬年齢６才）通称マルともうします。序列第二位である。大奥に入室を許されるも、あろうことか、ご主人様の寝具に、なんと「おもらし」をする、それも丑の刻（午前２時頃）、タップリと!!

「何の恨みがあるのか」と折檻（せっかん）され、松之牢屋に幽閉されるも、何ら悪びれる風もなし、ぐっすり眠れたのか、日の出と共に起き、反省したのか、おもらしの布団をペロペロとなめておじゃる、「可愛い奴じゃのう」それを見たご主人様、近未来の己を感じたのか、いつもの通り二人連れで、お散歩にお出かけになられた「いってらっしゃい」一件落着、まずは目出度し、目出度し。

平成 25 年度ボランティアガイド報告３

① 11 月３日　鹿児島県立青少年研修センター
歴史探訪「白銀坂・重富麓」（濱口・竹之内・橘木）

② 11 月 19 日　姶良・伊佐地域観光連絡協議会
古道「掛橋坂」　（恒吉・濱口・吉田）

③ 11 月 19 日　蒲生あやめ学級加治木史跡ガイド
「精矛神社・郷土館ほか」（藤崎・恒見・佐土原）

④ ２月 15 日　加治木小校区公民館
旧道を歩こう「加治木木田の史跡めぐり」
（恒吉・吉田・濱口・恒見）

⑤ ３月８日　鹿児島県立青少年研修センター
歴史探訪「白銀坂」　（橘木・濱口）

⑥ ３月９日　宮崎市教育委員会文化財課
「蒲生の大楠・武家屋敷ほか」　（橘木）

編集後記

今回は、「中津野用水路と水口ユキエ関連史跡めぐり」と「加治木巡見研修」の内容を中心に掲載しました。

さらに、ガイド養成講座生の皆さんが研修された内容も一部発表してもらいました。

今後とも良き案内ができるように、研修を積み重ねていきたいと考えています。

皆様方のご支援をよろしくお願いします。